

猛暑に備えてしっかり穂肥！

これまでの高温気象の影響で、草丈の伸びは落ち着いてきましたが、葉色がかなり淡くなっています。8月は高温が予想されるので、猛暑に備えて適切な後期栄養管理(穂肥、水管理)が必要です。

コシヒカリの幼穂形成期は、ほ場間やほ場内の差が大きくなっています。出穂期も平年より2~3日早まると予想されます。

1 7月17日現在のコシヒカリ生育状況 (拠点12地点平均、移植日平均5月10日)

草丈(やや長) 茎数(並) 葉数の進み(やや早) 葉色(淡)

| | 本年値 | 目標比・差* |
|------------------------|------|--------|
| 草丈 (cm) | 78 | 109% |
| 茎数 (本/m ²) | 459 | 103% |
| 葉数 (葉) | 12.1 | +0.4 |
| 葉色 (SPAD) | 30.2 | -3.7 |

※目標比・差は7月20日の指標値から3日早めて比較

前年(7/18)の葉色は35.7 (拠点9地点平均)

2 コシヒカリの管理ポイント

(1) 穂肥時期の水管理

幼穂形成期は飽水管理を徹底し田面を白く乾かさないようにする。

(2) 一発基肥の追肥 (出穂期12~10日前)

ア 葉色が著しく低下している場合 (SPAD値30以下) は、必ず追肥する。

(3) 分施の穂肥 (1回目: 出穂期20日前、2回目: 出穂期12~10日前)

ア 1回目穂肥について

特に葉色が低く (SPAD値25程度) の場合は、葉色確認後すぐにチツソ成分で1.5kg/10a施用する。

イ 2回目穂肥は、幼穂、葉耳間長を確認し、適期に計画量を「必ず施用」する。葉色が淡い場合は増量も検討する。

ウ 3回目穂肥は、2回目を施用しても葉色低下が続く場合 (SPAD値32以下のとき) は「出穂期6~3日前」に施用する。判断に迷う場合はJAや普及センターに相談する。

※ 詳しくは、佐渡米カレンダー(7月)を参照。減減栽培では化学窒素成分量の超過に注意。

JA佐渡各営農窓口で葉緑素計 (SPAD) を貸出中！葉色を確認しましょう！

3 その他の管理ポイント

(1) 斑点米カメムシ発生注意報が発表され、注意が必要。一斉草刈り期間(7/14~29)に必ず草刈りを実施する。

(2) 中干し終了後の水管理は飽水管理を行い、こまめな水回りで、限られた用水を地域全体に行き渡るようにする。

農作業時はこまめな水分補給・休憩で熱中症を予防しましょう。